

次世代 HERO

Next Generation's Hero

に た は ら ゆ う き
仁田原裕貴 さん

2019年度
日本ボッチャ選手権(BC1)
3位

障害者スポーツセンターのスタッフの勧めで19歳からボッチャを始める。初出場の県大会で優勝。



昨年12月に愛知県で行われた全国大会である日本ボッチャ選手権大会で3位に入賞した仁田原さん。現在は、令和2年度やまぐちパラアスリート認定選手で、日本ボッチャ強化指定選手でもあります。ボッチャとは、赤または青の革製のボールを投げ、白色的球にどれだけ近づけるかを競う競技です。パラリンピックの公式種目であり全世界で40カ国以上に普及しているスポーツです。

ルールが氷上で行われるカーリングに似ていることから「床の上のカーリング」とも呼ばれています。

日々の練習や試合での周りの方の応援やサポートが力になっているという仁田原さん。「母親やサポートしてくださるたくさんの方に感謝しています。来年の日本選手権で優勝すること、東京の次のパリでのパラリンピックに出場することが目標です。ボッチャの魅力をみんなに伝えたいです」

コロナ禍で 安心して 暮らすために



市長コラム 希望の風

市長の部屋

こんにちは。市長の前田晋太郎です。今年突如現れた新型コロナウイルスによって、私たちは生活スタイルを大きく変えざるを得ない状況が続いています。しかし、私たちは少しずつウイルスの特性や感染パターンを学び、元の生活リズムに戻そうと努力を続けています。そんな中「今日は体の調子が悪いな」「あれ、熱っぽいな」と感じたとき、誰しもコロナに感染したのではないかと、心配してしまうのではないだろうか。これまで、本市では発熱外来を設置し、感染者対応の医療ベッド数を拡大してきました。

さらにこのたび、PCR検査機器を設置し、本市独自の検査体制を整え、保健部内にインフルエンザとコロナの同時流行に備えた対策推進室を設置しました。これから目指す下関市の未来は、コロナを正しく恐れながら、対応を強化し、経済活動もしっかりと回復していくことです。そして何より、望ま



PCR検査機器の視察

ずしてコロナに感染した方々への差別や誹謗中傷を絶対にしない、優しさや安心に包まれた市民の心を育むことが私の最大の責務であると考えています。感染者に対して差別や非難をせず、他人への差別も許さない姿勢を見せることは、コロナのもう一つの闘いであると思います。